

第2期 佐川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 R2～R6(2020～2024)

基本目標及びKPI一覧(目標及び実績、達成評価)

| 該当項目 | 具体的な施策・事業内容 | 基本目標 | 事業KPI | 目標年次 | 目標数値 | R1末 | R2末 | R3末 | R4末 | 令和4年度(3/5目)結果分析 | 令和5年度以降の取組方針 | 担当課 | 累計 | 最終年度 |
|-------|----------------------------|---------------------------------------|-------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|----------|----|------|
| | | | | | | 実績見込み 2019年度又は 2018～2019年度 (出発点) | 実績 2020 (1年目) | 実績 2021 (2年目) | 実績 2022 (3年目) | | | | | |
| 基本目標 | 1. 地産外商を中心に魅力のある仕事をつくる | 基幹作物の年間産出量 | | 令和6年度 | ニラ 840t イチゴ 192t トマト 72t ショウガ 1,000t | ニラ 769t イチゴ 147t トマト 68t ショウガ 990t | ニラ 716t イチゴ 175t トマト 82t ショウガ 875t | ニラ 747t イチゴ 169t トマト 86t ショウガ 759t | ニラ 738t イチゴ 167t トマト 82t ショウガ 860t | 目標に対して概ね達成はできている。 | 引き続き関係機関と連携し、希望者への新技術の導入支援や新規就農者の確保・支援に取り組む | 産業振興課 | | ○ |
| | | 間伐面積 | | 令和2年度～令和6年度 | 200ha | 123ha | 7ha | 11ha | 17.21ha | 間伐施策を進めるため作業道整備が主となり、間伐面積が伸びていない。 | 林家の技術向上を図るため、切捨て間伐などの研修を実施する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | 観光客入込数 | | 令和6年度 | 60,000人 | 45,000人 | 26,501人 | 31,952人 | 44,885人 | 牧野富太郎博士顕彰事業による主要観光施設のリニューアル及び牧野公園草花ガイドの活動開始等により前年度より増加 上町30,599人、地質館14,286人、計44,885人 | 連続テレビ小館「らんまん」の放送を契機とした観光振興を図る。放送終了後も見据えた事業展開(リピーターの確保等)を実施。 | まちづくり推進課 | | ○ |
| | | 新規就業者数(農林工商観光など) | | 令和2年度～令和6年度 | 40名 | 48名 | 6名 | 11名 | 21名 | | | 産業振興課 | | ○ |
| 基本的方向 | 自伐型林業を核とした仕事の創出 | | | | | | | | | | | | | |
| | 自伐型林業の推進 | 集約化された林地面積 | | 令和2年度～令和6年度 | 500ha | 426ha | 189ha | 243ha | 369ha | 西山及び西山組地区及び、以前から集約化をしている尾川地区・斗笠野地区を実施 | 新たな地域の所有者アンケートの実施と、管理契約未締結者との集約化を進める。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | 間伐面積[再掲] | | 令和2年度～令和6年度 | 200ha | 123ha | 7ha | 11ha | 17.21ha | 間伐施策を進めるため作業道整備が主となり、間伐面積が伸びていない。 | 林家の技術向上を図るため、切捨て間伐などの研修を実施する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | 新規林業就業者 | | 令和2年度～令和6年度 | 15名 | 25名 | 5名 | 9名 | 13名 | 自伐型林業の支援環境が整ってきており、町内への定住に繋がっている。 | 目標値は概ね達成出来ており、林業に従事し町内で定住できるよう、山林集約と林業技術スキルアップ研修を実施する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | デジタル機器を活用したものづくりの強化 | デジタル機器を活用した商品開発数 | | 令和2年度～令和6年度 | 5件 | 3件 | 5件 | 5件 | 8件 | R4年度3件 レザー・草木染(R4年度卒業ラボ2名) ヒアスやヘアコム等の小物(R4年度採用ラボ1名) | 発明ラボ内での商品開発に力を入れて取り組む。 | まちづくり推進課 | | ○ |
| | 木材を活用した産業振興とエネルギー利用 | 森林資源フル活用センター木材取扱量 (R3開業予定) | | 令和6年度 | ※精査中 700t | — | — | — | — | 事業中止 | 事業中止 | 産業振興課 | | ○ |
| 基本的方向 | 持続可能な農業の振興 | | | | | | | | | | | | | |
| | 基盤整備の促進及びスマート農業の普及 | 圃場整備事業化面積 | | 令和2年度～令和6年度 | 20ha | — | 0 | 0 | 0 | 佐川地区(市/郷他)については、高規格道路の計画と調整が必要あり、事業実施年度を1年遅らせることとなった。 | 事業認可及び土地改良区設立認可に向けて、法手続きを進める。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | スマート農業の推進「Next世代型こうち新施設園芸システム」導入ハウス面積 | | 令和2年度～令和6年度 | 2ha | — | 0 | 0 | 0 | NTTと連携し、イチゴ栽培に関するAIを活用した実証実験を行った。 | 実験結果を検証したのち、事業導入についての可否を判断する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | スマート農業の推進(イチゴ)民間植物工場の誘致及び整備 | | 令和2年度～令和6年度 | 1箇所 | — | 0 | 0 | 0 | 民間企業と連携した植物工場プロジェクトについては、電気代の高騰により中止となった。 | 事業中止 | 産業振興課 | | ○ |
| | 地産地消及び地産外商による基幹作物の販売促進 | 基幹作物の作付面積 | | 令和2年度～令和6年度 | ニラ 15ha イチゴ 3ha トマト 1ha ショウガ 18ha | ニラ 14ha イチゴ 4ha トマト 1ha ショウガ 17ha | ニラ 14ha イチゴ 4ha トマト 1ha ショウガ 25ha | ニラ 14ha イチゴ 3ha トマト 1ha ショウガ 23ha | ニラ 11ha イチゴ 3ha トマト 2ha ショウガ 20ha | 作付面積については、軽微な変更にとどまり、大幅な増減はなかった。 | 目標数値の達成に向けた取組方針の柱は、新規就農者の確保としており、担い手育成総合支援協議会(UA・県・農委・町)で就農相談や農業経営支援の取り組みを進める。 | 産業振興課 | | ○ |
| 基本的方向 | 道の駅を中心としたブランド戦略による生産・販売の強化 | | | | | | | | | | | | | |
| | 町産品販売・情報発信の強化 | 道の駅来客者数 (R5開業予定) | | 令和6年度 | ※検討中 | — | — | — | — | | R5年6月に道の駅がオープンし、7月にはおもちゃ美術館がオープンするため、県内をはじめターゲットとして位置づけられている愛媛県側に積極的にPRを実施する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | 道の駅販売上額 (R5開業予定) | | 令和6年度 | ※検討中 | — | — | — | — | | 町内を中心に仁淀川流域や姉妹都市などの商品で品揃えを充実させるとともに、オリジナル商品であるハムクレーンや酒粕ソフトなどを積極的に販売し、目標の達成を目指す。 | 産業振興課 | | ○ |
| | 商品開発・磨き上げの強化 | 6次産業化された商品数 | | 令和2年度～令和6年度 | 10件 | 7件 | 5件 | 9件 | 14件 | 財団法人への委託により、新たに5件の商品が地域内で6次化できた。 | 委託事業による商品開発は予定していないが、道の駅オープンに併せて相模があれば、既存のアドバイザー制度等を活用し支援を行う。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | 特産品開発及びブラッシュアップに関するワークショップ参加者数 | | 令和2年度～令和6年度 | 250名 | — | 117名 | — | — | 今後、商品開発の事業を実施する場合に、改めて実施する。 | | 産業振興課 | | ○ |
| | 地域と一体となった観光振興 | 上町地区及び地質館への入込客数[再掲] | | 令和6年度 | 60,000人 | 45,000人 | 26,501人 | 31,952人 | 44,885人 | 牧野富太郎博士顕彰事業による主要観光施設のリニューアル及び牧野公園草花ガイドの活動開始等により前年度より増加 上町30,599人、地質館14,286人、計44,885人 | 連続テレビ小館「らんまん」の放送を契機とした観光振興を図る。放送終了後も見据えた事業展開(リピーターの確保等)を実施。 | まちづくり推進課 | | ○ |
| | | わんさかわっし体験イベント等での新しい体験プログラム作成件数 | | 令和2年度～令和6年度 | 25件 | 30件 | 15件 | 27件 | 40件 | R4年5月から新しい体験型で20プログラムを行い、新規や前年度とは異なった新しい体験プログラムは13プログラム。 | R5年度についても佐川町単独に加え、仁淀ブルー体験も行う。地域のお宝の掘り起こし、観光振興に繋げる。 | まちづくり推進課 | | ○ |
| | 佐川町ブランドディングによりプロモーション強化 | 情報発信、PRイベント開催数又は参加数 | | 令和2年度～令和6年度 | 5件 | 3件 | 5件 | 9件 | 13件 | 県外移住相談会4件、移住体験ツアー0件 | 県外移住相談会等に参加して情報発信を行う。 | まちづくり推進課 | | ○ |
| | | 牧野博士生涯160年記念事業に関する事業参加者数 | | 令和2年度～令和4年度 | 10,000人 | — | — | — | 281人以上 | 令和4年度に実行委員会組織内で実施した事業は、佐川町以外でも牧野博物館・後山自然の森博物館・後山立牧野記念庭園等にもあるが、入り込み客数を把握できていないため、総数は不明。 | 牧野富太郎博士生涯160年記念事業は令和4年度で終了 | まちづくり推進課 | | ○ |
| 基本的方向 | 後継者・起業者づくりの推進 | | | | | | | | | | | | | |
| | 農林業の後継者づくり/商工業の後継者づくり | 新規就業者数 | | 令和2年度～令和6年度 | 20名 | 23名 | 1名 | 2名 | 3名 | 実績については、新規就業者1名(イチゴ)となった。 | 目標数値は達成しているが、引き続き新規就業者確保に向けた取り組みを継続する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | 新規林業就業者数[再掲] | | 令和2年度～令和6年度 | 15名 | 25名 | 5名 | 9名 | 13名 | 自伐型林業の支援環境が整ってきており、町内への定住に繋がっている。 | 目標値は概ね達成出来ており、林業に従事し町内で定住できるよう、山林集約と林業技術スキルアップ研修を実施する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | 事業承継者数(農林工商) | | 令和2年度～令和6年度 | 3名 | 0名 | 0 | 0名 | 0名 | 0事業承継は、希望者がおらず取り組みが進んでいない。 | 希望者がいれば、支援策等の情報提供を行い関係機関と連携し支援する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | 人材育成の強化 | 商工業起業者数 | | 令和2年度～令和6年度 | 5名 | 3名 | 1名 | 0名 | 5名 | 空き店舗等の活用により、チャレンジショップ利用者を含め起業者が増えた。 | 引き続き、チャレンジショップを有効に活用する。 | 産業振興課 | | ○ |
| | | 起業研修開催数 | | 令和2年度～各年 | 2回 | 2回 | 0 | 0回 | 1回 | 新型コロナウイルス感染症の警戒レベルが下がり、1回の開催が出来た。 | 商工会と連携し引き続き行う。 | 産業振興課 | | ○ |
| | 商工観光分野の環境整備 | 上町地区及び地質館への入込客数[再掲] | | 令和6年度 | 60,000人 | 45,000人 | 26,501人 | 31,952人 | 44,885人 | 牧野富太郎博士顕彰事業による主要観光施設のリニューアル及び牧野公園草花ガイドの活動開始等により前年度より増加 上町30,599人、地質館14,286人、計44,885人 | 連続テレビ小館「らんまん」の放送を契機とした観光振興を図る。放送終了後も見据えた事業展開(リピーターの確保等)を実施。 | まちづくり推進課 | | ○ |

第2期 佐川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 R2～R6(2020～2024)

基本目標及びKPI一覧(目標及び実績、達成評価)

| 該当項目 | 具体的な施策・事業内容 | 基本目標 | 事業KPI | 目標年次 | 目標数値 | R1末 | R2末 | R3末 | R4末 | 令和4年度(3/5目)結果分析 | 令和5年度以降の取組方針 | 担当課 | 累計 | 最終年度 | | | |
|-------|-------------------------------|------------------------------|-------------|---------|----------------------------|---|---------------------|---------------------|--|--|-----------------|-----------------------------------|------------------------------|-----------------|---|--|--|
| | | | | | | 実績見込み 2019年度又は 2018～2019年度 (出発点) | 実績 2020 (1年目) | 実績 2021 (2年目) | 実績 2022 (3年目) | | | | | | | | |
| 基本目標 | 2. ふるさと愛を醸成するとともに、新しい人の流れをつくる | 県外からの移住者数 | 令和2年度～令和6年度 | 112名 | 110名 | 27名 | 40名 | 51名 | 地域おこし協力隊着任者 | 移住者向けの制度の周知 | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | | | | | 佐川で育った若い世代(15歳～24歳)の転出者数 | 令和2年度～令和6年度(暦年) | 年平均 100名 | 年平均 123名 | 120名 | 143名 | 125名 | 県外への進学・就職等 | 成人式等でのUターンチラシの配布等 | まちづくり推進課 | 〇 | | |
| 基本的方向 | 移住受入体制の充実と情報発信の強化 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 情報発信の強化 | 移住相談会の実施、参加数 | 令和2年度～各年 | 4回 | 9回 | 4回 | 4回 | 4回 | 高知暮らしフェア2回 | 県外移住相談会等に参加して情報発信を行う。 | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | | 移住相談件数 | 令和2年度～各年 | 200件 | 163件 | 101件 | 100件 | 57件 | 相談会への参加及び開催回数が少なかったため、昨年度比相談件数減 | 県外移住相談会等に参加して情報発信を行う。 | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | 移住者の受入体制の充実 | 空き家バンクからの契約物件数 | 令和2年度～令和6年度 | 25件 | 19件 (H28～R1) | 3件 | 4件 | 5件 | 空き家バンク登録件数の減少による | 空き家対策に関するチラシの作成 | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | | 移住者向け空き家改修補助件数 | 令和2年度～令和6年度 | 20件 | 7件 (H30～R1) | 1件 | 5件 | 10件 | 地域おこし協力隊と一般の方による改修等増加 | 今年度は埋まっていたが、来年度へさらなる情報発信を行う。 | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | 移住者のしごとづくり・いきがづくり | 地域おこし協力隊雇用数 | 令和2年度～令和6年度 | 45名 | 48名 | 9名 | 19名 | 29名 | さかわ発明ラボ、自伐型林業、有機農業、道の駅 | 県外移住相談会等に参加して情報発信を行う。 | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | | 移住者交流会の開催数 | 令和2年度～各年 | 5回 | 6回 | 1回 | 1回 | 0回 | コロナ禍のため | 交流の場を設ける | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | | わんさかわっしょい体験博での移住者企画数 | 令和2年度～令和6年度 | 30件 | 15件 (H30～R1) | 10件 | 17件 | 21件 | R3からに定フルー観光協議会でも体験博の取り組み | 事前ワークショップでの参加呼びかけ | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| 基本的方向 | 定住者の増加促進 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ふるさと教育の推進 | ふるさと教育に資する授業の各クラス時間数 | 令和2年度～各年 | 30時間 | 27時間 | 46時間 | 50時間 | 40時間 | 各校において、サカワークを活用し、地域を巻き込んだ「ふるさと教育」の取組が定着、浸透している。今後さらに人材の発掘と質的な充実を図っていく必要がある。 | 各教科と領域におけるカリキュラムマネジメントの実施と小中一貫した取組の充実 | 教委事務局 | 〇 | | | | | |
| | | 学校外の人材を活用した各クラス授業数 | 令和2年度～各年 | 10時間 | 8時間 | 6時間 | 15時間 | 10時間 | | 社会教育との連携による、関係者の拡大及び充実 | 教委事務局 | 〇 | | | | | |
| 基本目標 | 3. 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる | 婚姻届出数 | 令和2年度～令和6年度 | 170組 | 162組 | 30組 | 59組 | 82組 | | | まちづくり推進課及び健康福祉課 | 〇 | | | | | |
| | | | | | 出生者数(R6合計特殊出生率の目標:1.7に基づく) | 令和6年度 | 75人 | 80人 (H30) | 98人 (R1) | 53人 (R2) | 59人 (R3) | | | まちづくり推進課及び健康福祉課 | 〇 | | |
| 基本的方向 | ライフステージに応じた切れ目のない支援の推進 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 出会いの機会の創出と「子育てしやすいまち」の推進 | 婚活イベント又は出会いの場としての内容を含んだイベント数 | 令和2年度～各年 | 5回 | 1回 | 1回 | 0回 | 0回 | 新型コロナウイルスの影響により積極的なイベントの実施が困難 | コロナの感染状況を見ながら実施を判断 | まちづくり推進課及び健康福祉課 | 〇 | | | | | |
| | | 婚活サポーターの登録者数 | 令和6年度 | 10名 | 2名 | 2名 | 2名 | 2名 | 広報等で制度周知 | 広報等で制度周知 | まちづくり推進課及び健康福祉課 | 〇 | | | | | |
| | | マッチングシステム登録者数 | 令和6年度 | 30名 | 7名 | 11名 | 14名 | 9名 | 初回登録料の助成制度を導入中。周知を図り登録者数の増につなげた。 | 助成制度を継続し、登録者の増を目指す。 | 健康福祉課 | 〇 | | | | | |
| | | ファミリーサポートセンターの登録者数 | 令和6年度 | 130名 | 103名 | 112名 | 131名 | 146名 | 保育所を通じた制度周知と、個別の働き掛け | 保育所を通じた制度周知と、個別の働き掛け | 健康福祉課 | 〇 | | | | | |
| | | ファミリーサポートセンターの活動件数 | 令和2年度～令和6年度 | 350件 | 326件 | 775件 | 939件 | 845件 | ニーズに応じた依頼会員と提供会員の丁寧なマッチング | ニーズに応じた依頼会員と提供会員の丁寧なマッチング | 健康福祉課 | 〇 | | | | | |
| | | 親子連れで遊べる施設の整備数 | 令和2年度～令和6年度 | 2箇所 | - | - | - | - | | R5.7もちや美術館整備予定 | 健康福祉課及び各事業担当課 | 〇 | | | | | |
| | 女性活躍の場の拡大 | ファミリーサポートセンターの登録者数【再掲】 | 令和6年度 | 130名 | 103名 | 112名 | 131名 | 146名 | 保育所を通じた制度周知と、個別の働き掛け | 保育所を通じた制度周知と、個別の働き掛け | 健康福祉課 | 〇 | | | | | |
| | | ファミリーサポートセンターの活動件数【再掲】 | 令和2年度～令和6年度 | 350件 | 326件 | 775件 | 939件 | 845件 | ニーズに応じた依頼会員と提供会員の丁寧なマッチング | ニーズに応じた依頼会員と提供会員の丁寧なマッチング | 健康福祉課 | 〇 | | | | | |
| 基本目標 | 4. 小さな拠点を中心として地域の暮らしを守る | 集落活動センター事業の総参加者数 | 令和6年度 | 31,500人 | 26,202人 (H30) | 22,592人 (R1) | 22,592人 (R2) | 21,687人 (R3) | 新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の縮小や休止が続いたため、昨年度より利用者数が減少している | 5月から新型コロナウイルス感染症が第5類に移行することから、事業、イベントの再開や通常開催に向けて支援を行っていく | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | | | | | あったかふれあいセンターの集い利用者数(のべ人数) | 令和6年度 | 39,000人 | 23,158人 | 22,782人 | 23,131人 | 21,588人 | 新型コロナウイルスの影響、また実績のカウント方法の変更により減少。 | 地域のニーズを把握し、機能を充実させ、利用者増を目指す。 | 健康福祉課 | 〇 | | |
| | | | | | あったかふれあいセンターの集い利用者数(実人数) | 令和6年度 | 1,800人 | 1,033人 | 958人 | 942人 | 781人 | 新型コロナウイルスの影響、また実績のカウント方法の変更により減少。 | 地域のニーズを把握し、機能を充実させ、利用者増を目指す。 | 健康福祉課 | 〇 | | |
| 基本的方向 | 小さな拠点の活用促進と各地域同士がつながるまちづくりの推進 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小さな拠点の活用促進 | 集落活動センターを運営する組織の総会員数 | 令和6年度 | 420名 | 379名 | 376名 | 382名 | 332名 | 加茂の重づくり会が任意団体から一般社団法人となる際に会員の整理を行ったため、一時的に減少しているが、他の9団体は現状維持または微増している。 | 各団体の活動を通じて、行事等の参加者を増やすことにより、今後会員の増加と地域の活性化を図っていく | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | 地域ファンジテーターの普及と活用促進 | まちづくりサロンの開催数 | 令和2年度～各年 | 5回 | 2回 | 4回 | 0回 | 0回 | 新型コロナウイルス感染症予防のため、日程調整等が困難となり未実施 | コロナの感染状況を見ながら実施を判断 | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |
| | 地域移動手段の確保と維持 | 地域公共交通(ぐるぐるバス)の利用者数 | 令和6年度 | 10,000人 | 8,700人 | 8,411人 | 9,253 | 9,308 | 新型コロナウイルス感染症の影響下にも関わらず、利用者数は微増している。免許返納者も増加していることから、今後の確保は、公共交通の重要性が更に増していくと考えられる。 | 令和4年度に策定した地域公共交通計画に基づき、利便性増進計画の策定と運行ルートの変更などを実施し、利便性の向上と利用者の増加を図っていく | まちづくり推進課 | 〇 | | | | | |